

## 令和2年4月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,502	8,820	4,499	4,321	13	△ 12
2 千 石	4,035	6,801	3,425	3,376	△ 5	△ 23
3 内 山	5,751	7,905	4,184	3,721	67	64
4 大 和	3,377	6,575	3,204	3,371	△ 83	△ 169
5 上 野	7,321	15,385	7,611	7,774	△ 67	△ 156
6 高 見	7,370	13,454	6,412	7,042	△ 12	△ 46
7 春 岡	7,001	11,016	5,772	5,244	70	42
8 田 代	11,515	21,909	10,541	11,368	△ 22	△ 128
9 東 山	10,425	19,485	9,633	9,852	△ 34	△ 150
10 見 付	4,321	8,004	4,050	3,954	△ 35	△ 36
11 星 ケ 丘	3,553	6,917	3,130	3,787	22	△ 8
12 自 由 ケ 丘	3,524	7,129	3,244	3,885	2	△ 25
13 富 士 見 台	6,465	15,252	7,087	8,165	8	△ 4
14 宮 根	3,866	8,190	3,900	4,290	8	△ 11
15 千 代 田 橋	3,702	8,441	3,964	4,477	△ 4	△ 25
千 種 区 計	87,728	165,283	80,656	84,627	△ 72	△ 687
H31.4.1	87,018	164,979	80,485	84,494	△ 143	△ 843
対 前 年 比	710	304	171	133	71	156
名 古 屋 市	1,122,648	2,324,877	1,147,343	1,177,534	2,776	△ 2,563
愛 知 県 ( R2.3.1 )	3,246,435	7,549,422	3,777,484	3,771,938	312	△ 2,572

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	79	135	△ 56	2,887	3,518	△ 631

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

## 令和元年千種区の人口動向の概況

新年度となり、身の回りで転入・転出があった方も多いと思います。そこで今回は千種区の人口動向を考える上で重要な人口増減の内訳を見ていきたいと思います。

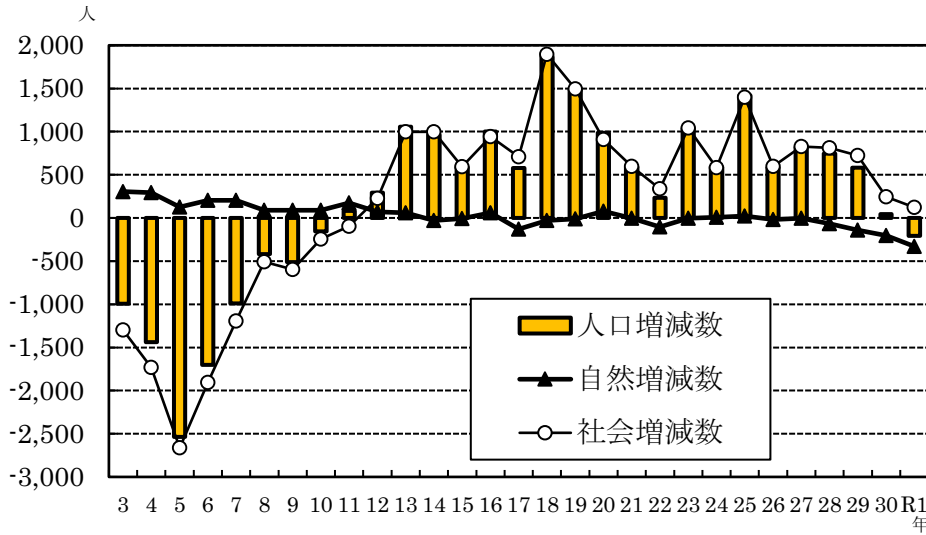


図 1: 千種区の人口増減数、自然増減数および社会増減数の推移 (各年前年 10 月～当年 9 月)

令和元年 10 月現在の千種区の人口数は、前年同月比 207 人減少の 165,863 人となっており、名古屋市 16 区のうち 4 番目の人口規模です。図 1 の人口増減数を見てみると、千種区の人口は平成 11 年から平成 30 年まで増加しています。社会増減数（転入数－転出数）は、平成 8 年度以降人口増減数の変化にほぼ対応して変化しています。一方、自然増減数（出生数－死亡数）は年々ゆるやかに減少しています。従って、千種区の人口増減数の変化は社会増減数の変化に大きく依存していると考えられます。そこで、社会増減数およびこれを左右する転入数・転出数について見ていきます。

平成 30 年 10 月から令和元年 9 月までの千種区の社会増減数は 122 人の増加となっており(図 2)、名古屋市 16 区の中で 14 番目となっています。自然増減数は前年比で 329 人減少しています。また、社会増減数は平成 12 年以降転入超過を維持しています。

また、人口移動数(転入数+転出数)は 27,634 人で、16 区中最大となっています。

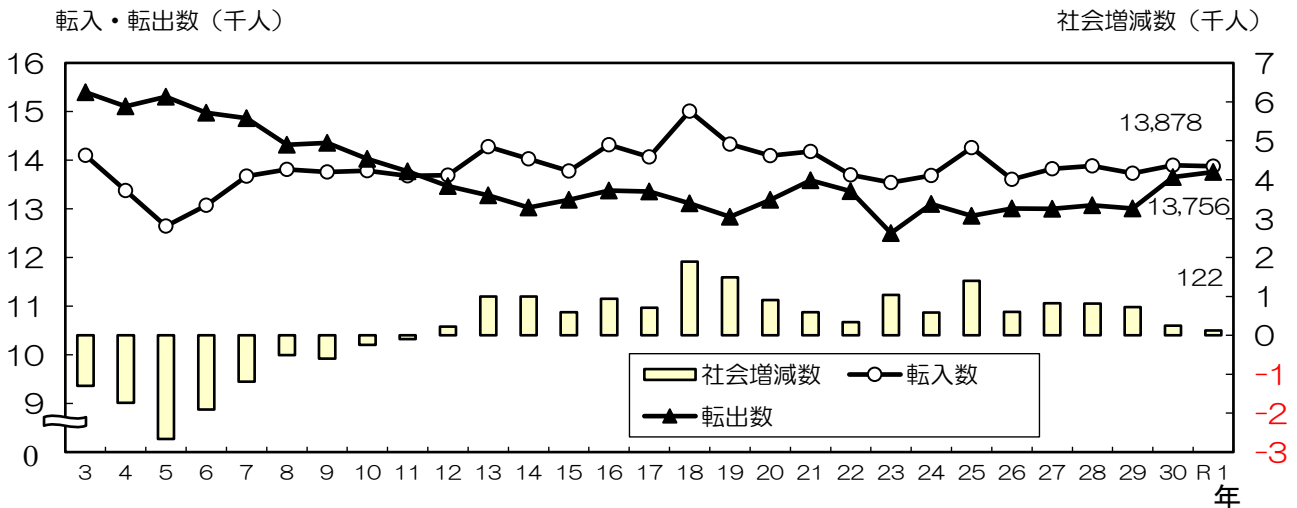


図 2: 千種区の平成元年以降の社会増減数、転入数および転出数の推移 (各年前年 10 月～当年 9 月)